

ぱれっと

2008
8月

No.108

■ 目次 ■

すぽっとらいと

アラカルト

サポ本を読もう

サポセン日記
イベント紹介
お知らせ

国際交流をもっと身近に
宮城青年国際交流機構（宮城 I Y E O）
～サポセン相談活用術～
そうだ！サポセンに相談してみよう！
『NPOマネジメント』
図書コーナー
8月のイベント紹介



▲冷温水発生機

はじめまして、冷温水発生機です

いつもサポセンの屋上で働いているので、みなさんにお会いできないのが残念です。館内の冷暖房を快適に保つ仕事をしています。20年働きづめだったせいか、この4月に壊れてしまいました。

ご迷惑をおかけしてごめんなさい。6月末にようやく直してもらいました。これから夏本番！また頑張ります！

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

国際交流をもっと身近に 宮城青年国際交流機構（宮城 I Y E O）

仙台市には約1万人の外国籍の方が住んでいます。また国際的なイベントも多く開催され、国際交流を身近に感じる機会も増えています。今回は国際交流活動をされている宮城国際交流機構の副会長の伊勢みゆきさんと、事務局長の石原幸子さんにお話をうかがいました。



▲石原さん(左)と伊勢さん(右)

●成り立ち

みなさん、「世界青年の船」をご存知でしょうか？さまざまな国の青年たちが、船や飛行機で世界各国を旅しながら国際交流を行う内閣府主催の青年国際交流事業です。この他に「東南アジア青年の船」、「国際青年育成交流」、「日中／日韓青年親善交流」などの計7つの事業があり、今年で50年の歴史があります。

それらの事業に参加したOB・OGが中心となり、その成果を地域に還元していくため全国に青年組織が結成されました。海外60数か国、全国47都道府県の支部に約1万5千人のネットワークを持って活動をしています。

宮城 I Y E O は、1985年に宮城県の支部組織として誕生しました。

●受入れプログラムは多種多様

宮城 I Y E O の大きな活動として青年国際交流事業の受入れプログラムの企画、実施があります。これまで宮城 I Y E O では、さまざまなプログラムを行ってきました。

平成19年度「世界青年の船」の受入れでは仙台市内の小学校で児童と海外からの青年の交流が行われ、また平成14年度「日本韓国青年親善交流」では、韓国と縁の深い若柳町の輪王寺でディスカッションが開催されました。そして平成18年度「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業はNPOマネジメントをテーマにプログラムが生まれ、先駆的な取り組みとして仙台市市民活動サポートセンターの視察も行われました。

この受入れプログラムの間、青年たちは一般家庭にホームステイをします。ホストファミリーとのマッチングも仕事の一つです。「言葉や習慣、宗教の違いもあり大変なことはいろいろありましたが、それもひっくるめてみなさんに良かったといっていました。ホストファミリーの方の

中には、その後も交流がずっと続いている方もいらっしゃいます。」と副会長の伊勢さん。

その他にも自主事業として、仙台に住む留学生との交流を深める機会になればと1泊2日の「国際交流ファミリーキャンプ」や「グローバルフェスタ」など、地域の国際交流の間口を広げようとさまざまな活動を行っています。「準備は大変ですが、参加した方たちにとって良い思い出になると思います。将来子どもに青年国際交流事業に参加して欲しいと考える親御さんもいらっしゃいました。」と伊勢さん。こうした出会いや体験が国際交流の第一歩となっているようです。

●事務所はサポセン

宮城 I Y E O は現在会員が約280人。そのうち事務局として中心的に活動しているメンバーは約15人。全員が普段は仕事を持っており、限られた時間の中で団体運営を行っています。各自仕事の関係などでひとつの地域で継続的に活動することが難しく、スタッフの人材確保や育成が現在の大きな課題となっています。

そのため宮城 I Y E O では参加して1～2年目の会員を役員に抜擢します。早い段階から中心スタッフとなって運営を学ぶことで、スタッフにとって活動しやすい環境になるのではと考えています。

こうした活動の中で、事務所を持たない宮城 I Y E O にとってサポセンはなくてはならない場所です。レターケースとロッカー、印刷室、貸室利用とフル活用しています。

平日夜10時まで開館しているのでスタッフが仕事帰りに立ち寄ることも多く、ロッカーやレターケースから活動に必要な情報を取り出しやすくなったそうです。「交通の便も良いので市外のスタッフもミーティングに参加しやすくなり出席率が上がりました。」と事務局長の石原さん。

「最近では、ホストファミリーの受付窓口をサ

団体紹介

宮城青年国際交流機構（宮城IYEO）

内閣府が主催する青年国際交流事業に参加したメンバーがその経験を生かしてさまざまな国際交流活動を企画、運営しています。地域社会における国際交流活動の推進に貢献し、また広く一般の方にも紹介していくことを目的としています。

<団体連絡先>

〒980-0811
 仙台市青葉区一番町四丁目1-3 レターケース55番
 TEL 090-3128-6851 (石原)
 FAX 022-268-4042
 E-mail miyagiiyeo@hotmail.com



▲ 「地球を語る仲間」たち

ポセンにしました。届いたFAXをレターケースに取次いでくれるので安心して事務処理が出来よかったです。全国に支部がありますが事務局を設置しているのは10支部にも満たないくらいで、ほとんどの支部では窓口が会員の個人宅になってしまいます。他県のスタッフにうらやましいって言われますね。」と伊勢さん。

●国際交流の“きっかけ”を

今後、団体を運営していく上で大切なことは、事業に参加した経験を生かして社会に貢献するというミッションをもっと明確にしていくことだと考えています。

そのためには、青年国際交流事業に参加した青年たちが、その貴重な経験を地域に還元していこうと意識することが必要です。「青年国際交流事業に参加して終わりではなく、そこから事後活動として何が出来るかを考えることができるような組織にしていきたいです。世界を見てきたメンバーに、今度は地域を見つめて国際交流の足元を固めて欲しい。」と伊勢さん。

これからは団体としても地域に貢献できるような活動をもっと増やして行きたいと考えています。そして、青年国際交流事業に参加したOB・OGだけではなく、国際交流に関心を持つ市民の方にも参加いただけるような活動を加え、新しい



▲ 留学生とクッキング

視点を入れながら活性化を図っていききたいそうです。

「国際交流をやってみたいと考えている学生も受け入れられる体制を作っていききたいです。私も学生の頃、なかなか国際交流活動の場を見つけられなかったの、そういった人たちの受け皿になりたいですね。」と石原さん。

「国際交流のきっかけを作っていくということが、人と人をつなげていくことにもなればと思います。」と伊勢さん。

こうしたさまざまな活動が、より良い国際社会になっていく足がかりになるのかもしれない。



取材を終えて

中学生の頃ですが、我が家でもホームステイを受入れたことがありました。家族の誰一人として英語を話せませんでした。身振り手振りでコミュニケーションをとり、とても楽しい日々だったことを覚えています。

今回、宮城IYEOの伊勢さんと石原さんのお話を伺って、国際交流にとって言葉が通じることも大切ですが、いろんな国の人たちと出会い、つらいことも楽しいことも経験しながら、お互いの文化を尊重することが国際交流の第一歩だと感じました。

(担当 後藤 多喜美)

◆海外青年受入れホストファミリー募集◆

宮城県では、内閣府が主催する「東南アジア青年の船」事業で来県する海外青年（ASEAN 10カ国）と日本青年の宿泊などをお世話いただくホストファミリーを募集します。

滞在期間＝10月24日（金）～26日（日）

募集家族＝15家族（1家族2名）

（単身者を除く。応募多数の場合選考）

募集期限＝8月20日（水）

問 宮城青年国際交流機構（宮城IYEO）

TEL 090-3128-6851（石原）

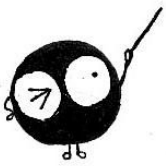
E-mail miyagiiyeo@hotmail.com

HP: <http://www.pref.miyagi.jp/seisyo/>

アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

そうだ！サポセンに相談してみよう！



サポセンでは、電話や窓口で、ボランティアや市民活動に関するさまざまな相談に対応しています。今回は、「サポセンの相談」を詳しくご紹介していきます。

■どんな相談がきたのでしょうか？

平成19年度に、サポセンに寄せられた相談・問い合わせ件数は814件でした。このうち、市民活動団体の方からの相談が最も多く384件で全体の47%、ついで個人の方からの相談が174件で21%でした。その他にも、行政や企業の方からの相談もありました。

内容を見ると、貸室や印刷機の利用方法に関する問い合わせから、助成金の獲得や活動のPRなど団体運営に関することまで実にさまざまです。

施設利用の問い合わせをのぞく、ボランティアや市民活動に関する相談で最も多かったのは、団体情報の問い合わせでした。Best 5は以下のとおりです。

- Best1 市民活動団体の情報を教えてほしい
- 2 団体運営について
 - 3 ボランティアを始めたい
 - 4 NPOの基礎情報について知りたい
 - 5 団体を立ち上げたい

■こんな時は、相談してみよう！

「何か深刻な課題がなければ、相談してはいけないのでは…」そんなことはありません。例えば、こんな時にご相談いただけます。

● まだ活動はしていないけれど…

- ・ボランティア活動に興味があるけれど…。
- ・市民活動団体ってどんな団体があるの？
- ・NPOってよくわからない。
- ・団体を立ち上げて、活動を始めたい。

● 既に活動している方

- ・助成金情報を知りたい。
- ・活動のPRを効果的にしたい。
- ・イベント運営について知りたい。
- ・会計について知りたい。
- ・団体運営について学びたい。
- ・行政と協働で取り組みたい課題がある。

● 行政・企業の方

- ・協働するNPOを探している。
- ・CSRについての情報を得たい。



『NPOマネジメント』
発行：IIHOE
[人と組織と地球のための国際研究所]
年間購読（年6回隔月）
定価 5,250円
NPO特別価格 3,500円
（法人格の有無を問わず）

■サポセン図書
「雑誌コーナー」にあります。

サポ本を読もう！

『NPOマネジメント』

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。

サポセンでは、定期購読書としてこの雑誌を購入しています。NPOや市民活動団体、社会事業家へ向けたマネジメント専門誌です。

社会の動き、NPOの動きに関することや、それらに即した課題を解決するための特集、紙上マネジメント相談、会議上手になろう！と題したさまざまな場面での会議の進め方など…。NPOが活動や運営をする上で大いに役立つ内容が満載。事業を企画する上でも参考になる内容や使えるワークシートもあり、我々サポセンスタッフ必読の書になっています。

「ロジを究める」というコーナーは、NPOの日常的な活動上の課題に焦点をあて、改善のポイントが書かれています。「参加してほしい人に申し込んでもらえるチラシとは？」「事業で得た経験を、団体の資産にするために」結構ドキッとしませんか？書店では購入できない団体の悩みを解決できるお役立ち本です。

（担当 伊藤 浩子）

■相談ケースから

相談がきっかけで、一步踏み出した例もたくさんあります。次に、サポセンに寄せられた相談から二つのケースをご紹介します。

NPOで活動したいと考えていたAさんの場合

まずは、スタッフとじっくり話し、何に関心があるのか、どんな活動をしていきたいのか整理しました。次に、「テーマ」が少しずつ絞れてきたところで、サポセンの情報サロンにあるイベントチラシや団体情報ファイルを見ながら、情報を収集しました。Aさんは、ちょうど募集していた「国際協力」のイベントの実行委員として、活動に参加してみることに。

今では、団体の主要メンバーとして意欲的に活動を継続中です。

子育て支援の団体を

立ち上げたいと考えていたBさんの場合

何人かの仲間と一緒に相談に来たBさん。まずは、スタッフと話しながら、立ち上げのために必要な準備ができているのか確認しました。

そして、同じような活動をしている団体の情報や子育て支援のための他施設情報も入手。後日、この情報をもとに他団体を見学したり、子育て支援施設へ相談に行ったりすることで、活動開始後のサポート体制を確立しました。

また、タイムリーにサポセンで実施していた起業講座も受講し、組織運営についても学んでいきました。

今では、定期的に子どもの託児事業を実施しており、安定した活動を継続中です。

■サポセン相談の強い味方

豊富な情報

1階情報サロンには、チラシやニュースレターなど市民活動団体の600近い情報が常に配架されています。

また、県内外の市民活動団体約4,300団体の情報がストックされた「団体情報ファイル」では、団体の活動歴やより詳しい情報を得ることができます。さらに、NPO関連の書籍もあり、館内での閲覧のほか、貸出も行っています。



すぐに使えるお役立ち情報

市民活動に役立つ情報を、テーマごとにまとめた「クリッピングサービス」や、サポセンで開催してきた講座資料など、すぐに役立つ情報を用意しています。

講座

今年度は、NPOの基礎的なことを学ぶ「NPOいろは塾」、既に活動している方の課題解決にご利用いただける「NPOステップアップ講座」を開催します。

他施設とのネットワーク

市民活動団体の情報発信の支援として仙台市内の9施設と連携して「骨プロ」サービスを実施。

また、2007年7月1日にサポセン3階にオープンした「仙台市シニア活動支援センター」とは、情報提供や相談面でも連携しています。

皆さんの相談に応じるのは、全てサポセンの指定管理者である（特活）せんだい・みやぎNPOセンターのスタッフです。長年、NPOの中間支援組織として培ってきたノウハウを生かしながら、さまざまなご相談に対応しています。

スタッフにお気軽にお声がけ下さい。



50代になったら、ちょっと早めにセカンドライフについて考えてみませんか？

サポセン3階のシニア活動支援センターの『相談』もご活用ください。

●継続的な相談対応の一例をご紹介します。

□まずは思いを整理する

建設会社の営業をしているAさん。来年、定年を迎えるが、65歳くらいまではある程度の収入を得て働きたいと相談に訪れる。シルバー人材センターや就労支援をする市民活動団体等を紹介した。現在は情報を得て意欲が湧き、表情も明るくなってきた。

□具体的な活動への参加を応援する

退職後、引きこもりにならないよう、何か自分のできることを探して外に出たい、と相談に来館。継続的に相談対応するうちに、興味のある子育て支援のNPOを紹介し、活動に参加することになった。

●相談のいろいろ ①～③

①**一般相談**（予約不要）スタッフが幅広く相談を受け付けています。さまざまな相談に対応するため市内シニア活動支援施設・機関とも連携。

②**総合相談**（毎月第4木曜日 要予約）定年退職後の経済面の不安、健康、生きがいづくりなどのセカンドライフの幅広いご相談を、経験豊富な相談員が相談に応じます。

③**専門相談**（毎月第2土曜日 要予約）環境、福祉、まちづくりなどの地域・市民活動や起業についてなど、毎回テーマを設け実施。専門知識を持つ相談員が相談に応じます。

◆サポセンのサービスがどんなふうに見えるのか、スタッフが日常の窓口風景をとおして紹介します！

サポセン日記

～ 図書コーナー～

活動に悩んだとき、役立つ情報に出会える

●市民活動のお役立ち情報がいっぱい！

サポセンの1階・情報サロンの奥にある図書コーナーには、約3,500冊の市民活動に関する図書・雑誌が並んでいます。この図書コーナーには「市民活動のノウハウ」や活動の参考になる資料をそろえています。図書は手にとって自由に閲覧することも可能ですし、貸出も行っています。貸出は、1回につき2冊まで、貸出期間は2週間となっています。是非お立ち寄り下さい。なお、白書や雑誌など、一部貸出できない図書もありますのでご了承下さい。

●図書のリクエストも受け付けています

図書コーナーの本は、スタッフが市民活動に関する本を選んでいますが、みなさんからのリクエストも随時受け付けています。市民活動に関する本で「読んでみたい!」「サポセンに置いてほしい!」という本がありましたら、情報サロンに置いてある「リクエストカード」にご記入のうえ、スタッフまでご提出下さい。図書を購入する際の参考にさせていただきます。

今年は、7月・10月・1月の3回に分けて図書の入荷を予定しています。新しい図書が入荷したら、図書コーナーや、サポセンホームページなどでご案内いたしますので、お楽しみに！

●サポセンで購読している雑誌

図書と違い、雑誌は旬なNPO・市民活動情報や、活動に役立つノウハウがぎゅっと濃縮されて掲載されています。

- ・月刊ガバナンス（発行：（株）ぎょうせい）
- ・NPOのひろば（発行：日本NPOセンター）
- ・V o l o（発行：大阪ボランティア協会）
- ・NPOマネジメント（発行：IIHOE）
- ・たあとる通信（発行：アリスセンター）

■利用者に突撃インタビュー！

今回は、いつも図書コーナーをご利用いただいている、メディアデザインの真山正太さんにお話を伺いました。

スタッフ：いつも図書コーナーをご利用いただきありがとうございます。

真山さん：このあいだ自分が持っている本を「読みたい!」という人に貸してしまって、ちょうど講座で使いたい時に手元に無くて困っていたんです。そしたら、サポセンの図書コーナーにあったので、即借りました。とっても助かりました。

スタッフ：市民図書館もよく利用されているようですが、サポセンの図書コーナーは他の図書館と比べてどうですか？

真山さん：そうですね。まあ、少し偏った蔵書ですけども、参考にしたい本が揃っていると思います。一生懸命読んでいます。

ありがとうございました。これからも、サポセン図書コーナーをぜひごひいきに！
(担当：内川 奈津子)



▲ 図書を選んでいる最中の真山さん。さて、次は何を借りるのでしょうか？

◆ イベント紹介 8月 ◆

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
8月3日(日) 14:00~16:30	栽培講座 “有機野菜のQ&A”	研修室2	無料 (事前申込必要) ※Faxでお申し込み下さい	NPOせんだい食農交流ネット Tel&Fax: 022-279-2540 ※Telは夕方以降 (岸谷)
8月21日(木) ~全6回 18:30~21:00	フットケア・セラピスト養成講座 手軽に覚えられるフットケアを 健康管理に役立ててみませんか?	研修室3	受講料20,000円 認定・申請テキスト代10,000円 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax: 022-223-9023 携帯:090-7564-9831 (森)
8月30日(土) 13:00~16:00	ダンテ「神曲」読書会。 「新生」を読む。	研修室2	300円 (事前申込不要)	ダンテ「神曲」読書会 Tel:022-772-5272 (田中宏子)
9月6日(土) 10:00~12:30	私達が今住んでいる地盤のお話と ゲームで災害意識を高めませんか? (おとしより~子供対象)	研修室5	500円 (事前申込必要)	未来の仙台を考える会 携帯:090-6229-0565 Fax: 022-277-1537 (福田・芳賀)



- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

第11回 アフリカの風。大地の香り。～今日も一日アフリカ日和～
アフリカを題材とした、写真・絵画・詩・音楽・ドキュメント・ゲームを通して、アフリカの現状や考え方を紹介します。

●昨年度「市民活動シアターを3倍面白くする企画」に応募いただいた、22企画の中から選考を通過した8企画を、8月から2月までの期間、毎月実施していきます。

開催日	時間	イベント	参加費
8月30日 (土)	10:00~12:00	マンカラ大会	無料
	13:00~14:00	アフリカの詩朗読会	無料
	18:00~21:00	アフリカン音楽ライブ アニャンゴ WITH ニャティティワレンボ!	前売: 1,600円 当日: 1,800円
8月31日 (日)	13:00~16:00	早川千晶トークショー & アフリカン音楽ライブ	前売: 1,600円 当日: 1,800円

★30・31日アフリカライブ Wチケット有り 前売のみ: 3,000円

<申込み・問合せ先>
アマニ・アフリカ祭実行委員会
TEL & FAX: 247-4225

<アマニ・アフリカ祭実行委員会>
アフリカ・ケニアを中心とした国際協力のイベントやケニアの商品販売を行う。音楽や写真、公演などの活動を通して、仙台市・東北の人々にケニアの現状を伝え交流することを目的として活動している。

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

- セカンドライフの相談を個別にそして段階に応じて受け付けます。詳細はお問い合わせください。

< 申込み・問合せ >

仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)
TEL: 217-3983

シニア専門相談 <無料/予約制/1組1時間程度>	シニア総合相談 <無料/先着5人/予約制>	「地域もあなたも明るくなる講座」
<p>■ 8月9日(土)</p> <p>午前10時~午後6時</p> <p>セカンドライフに、独立・起業・開店をしたい方! アイディアを整理するお手伝いをします!</p> <p>[相談員] 酒・肴・椀 一汁一菜 小林 英雄さん 国民生活金融公庫仙台支店 (こきん創業支援センター仙台) 創業支援課長 坂口 肇さん</p>	<p>■ 8月28日(木)</p> <p>午後1時~8時</p> <p>テーマを定めずセカンドライフの相談に専門相談員が幅広く応じます。</p> <p>[相談員] シニア元気笑学校 校長 渡辺源治さん</p>	<p>■ 8月23日・30日(土)</p> <p>午後1時半~4時半 (2回連続)</p> <p>定年退職を控えた、もしくは迎えたみなさん! 経験やスキルを生かして何かしたいと思っているのに、実際は家に閉じこもっていませんか? 身近な地域の活動を知って参加すると、地域も自分も明るくなるはず。講座への参加がその第一歩です。</p>

お知らせ ●○○●

展示スペース 使用団体募集します!

サポセンの中で最も人が集う5階の交流サロンで、団体のPRをしませんか。団体のPRはもちろん、活動の様子を写真や作品を通して伝えたり、展示を見る人に問いかけたり…と、さまざまな方法で情報発信をすることができます。
使い方はあなた次第。ぜひご活用ください!

■募集対象

市民活動団体やNPOなど、非営利で公益的な活動をしている団体が行う展示

(例) 写真展、活動報告、作品の展示など

■利用料 無料

■利用期間 約2週間

毎月1日～15日または16日～月末の期間

休館日(毎月最終水曜)を除きます。

上記期間には設置・撤去を含みます。

■受付期間 展示開始日の6ヶ月前より先着順

9:00～21:00(日曜日は17:00まで)

展示に使える備品をご用意しています。

■常備品

パネル(縦120cm、横90cm)×8枚
縦長で壁に吊り下げている。

マグネット、画鋸を使えるタイプ。

長机×2台

■貸出備品

がびょう、マグネット(30cm)×30個

ワイヤー、脚立、ドライバー

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時

日曜・祝日 / 午前9時～午後6時

● 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

7/30(水) 8/27(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

○貸室

(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。

○ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)

○交流サロン

少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)

チラシ・ポスターの掲示、展示スペース

インターネット接続スペース(要申込/無料)

○情報サロン

市民活動団体に関するさまざまな情報があります。

市民活動相談の受付や図書の見学・貸出も行っています。

市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)

○印刷作業室

印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))

コピー機(1枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行 行: 仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

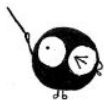
発行日: 2008年7月22日

編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人: 小松州子 本田ふみ 葛西淳子

★古紙再生紙を使用しています。

★大豆油インキを使用しています。



■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

□当施設に駐車場・駐輪場はございません。

お車や自転車でお来館される方は、

周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

[注]路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

編集後記

◆夏がきた! 海に山に…夏を満喫しよう! いや、夏こそ市民活動だ…! サポセンは夏休み中もみなさんのご来館をお待ちしております。(葛西)

◆サポセンの1階に、“さをり織り”のふきながしが飾られました。和紙のものとは、また違う味わいがあります。一見の価値ありですよ。(小松)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。

指定管理期間: 2007年4月1日～2010年3月31日